

令和4年度新潟県原子力防災訓練（総合訓練）実施結果

柏崎市危機管理部防災・原子力課

1 目的

- (1) 柏崎市地域防災計画（原子力災害対策編）に基づき、国、県、関係市町村及び防災関係機関の相互の連携による原子力災害時の体制・対応を確認するとともに、防災業務従事者の対応力の向上・習熟を図る。
- (2) 住民参加により、原子力災害時の防護措置に対する理解の向上を図るとともに、訓練の結果を検証し、住民避難における問題点や課題を抽出し、現行の計画の見直しや具体化につなげる。

2 実施時期

令和4年（2022年）	10月24日（月）	午前8時30分から午後4時まで
	10月25日（火）	午後1時45分から午後5時まで
	10月26日（水）	午後2時から午後5時まで
	10月29日（土）	午前8時から午後5時まで
	11月 8日（火）	午後1時から午後3時まで

3 主催及び主管

主催：新潟県 主管：柏崎市防災会議

4 参加機関

新潟県、柏崎市、県内市町村、国（内閣府、原子力規制庁等）、関係機関（海上保安庁等）、柏崎市消防団、東京電力ホールディングス株式会社 ほか

5 訓練想定

柏崎市、刈羽村等で震度6強の地震が発生し、唯一運転中の柏崎刈羽原子力発電所7号機において、原子炉が自動停止。その後、炉心冷却機能の一部が喪失し施設敷地緊急事態となり、炉心冷却機能が喪失し全面緊急事態となる。その後、炉心が損傷し、放射性物質が放出され、一時移転が必要な空間放射線量の上昇が認められた状況になる。

6 訓練項目

10月24日(月) 午前8時30分～午後4時

- (1) 柏崎市災害対策本部運営訓練(市役所3階 災害対策本部会議室)
- (2) オフサイトセンター運営訓練(柏崎刈羽原子力防災センター(柏崎市三和町))
- (3) 緊急時通信連絡訓練(市役所3階 防災・原子力課執務室)

10月25日(火)、26日(水)、11月8日(火)

- (4) 学校等における保護者への引渡し訓練(小学校・保育園・県立学校)
10月25日(火) UPZ:北条小学校、鯖石保育園
26日(水) PAZ:日吉小学校、松波保育園
11月 8日(火) 県立はまなす特別支援学校

10月29日(土) 午前8時30分～午後5時

- (5) PAZ内住民のバス及び船舶による避難訓練(松波地区)
- (6) UPZ内住民の屋内退避訓練(市内UPZ内地区の住民)
- (7) UPZ内住民のバス及び自家用車による一時移転訓練(西山地区)
- (8) PAZ内放射線防護施設訓練(高浜地区)
- (9) 安定ヨウ素剤緊急配布訓練((5)、(7)のバス避難集合場所)
- (10) スクリーニング・簡易除染訓練(新潟市:豊栄SA)
- (11) 広報活動訓練(市役所3階 防災情報通信室、防災・原子力課執務室)

7 訓練スケジュール

令和4年度 新潟県原子力防災訓練（柏崎市実施分）

【緊急事態区分：警戒事態（AL）、施設敷地緊急事態（SE）、全面緊急事態（GE）、OIL（放射性物質放出後）】

		8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	
10月24日 (月曜日)	緊急事態区分	SE、GE										※訓練時間 スキップ	GE+OIL							
	柏崎市災害対策本部運営訓練	訓練①											訓練②							
	オフサイトセンター運営訓練	訓練①											訓練②							
	緊急時通信連絡訓練	← 随時通信体制保持 → ●TV会議											← 随時通信体制保持 → ●TV会議							

		13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30
10月25日 (火曜日)	緊急事態区分				AL	SE	GE+OIL				
	UPZ内の学校等における保護者への引渡し訓練（学校・保育園）				●保護者へ迎えの要請 ●保護者へ引渡し ●屋内退避 ●引き渡せなかった児童園児を教職員引率のもとバスで避難						
10月26日 (水曜日)	緊急事態区分				AL	SE					
	PAZ内の学校等における保護者への引渡し訓練（学校・保育園）				●保護者へ迎えの要請 ●保護者へ引渡し ●引き渡せなかった児童園児を教職員引率のもとバスで避難						
11月8日 (火曜日)	緊急事態区分	AL	SE								
	PAZ内の県立学校における保護者への引渡し訓練（学校・保育園）	●保護者へ迎えの要請 ●保護者へ引渡し ●引き渡せなかった児童園児を教職員引率のもとバスで避難									

		7:30	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30			
10月29日 (土曜日)	緊急事態区分 【EAL】			AL	SE	GE+OIL																	
	PAZ内住民の船舶避難訓練 【松波地区】			●訓練住民の乗船・避難開始					●直江津港に到着・下船 ●避難経由所に向けて出発					●帰柏									
	UPZ内住民の屋内退避訓練 【UPZ全地区】	●職員出動		●屋内退避訓練開始 ●訓練終了										●帰柏									
	UPZ内住民の一時移転訓練 【西山地区】	●職員出動		●情報収集・伝達訓練（要配慮者の安否確認等） ●屋内退避 ●一時移転開始（バス）					●スクリーニングポイント到着 ●避難経由所到着 ●避難所到着					●帰柏									
	PAZ内放射線防護対策施設への避難訓練 【高浜地区】	●職員出動		●フィルタリングシステム稼働 ●放射線防護対策施設への避難訓練（福祉車両）																			
	安定ヨウ素剤緊急配布訓練	●職員出動		●バス避難集合場所に到着した方から順次配布																			
	スクリーニング・簡易除染訓練	●スクリーニング・簡易除染訓練																					
広報活動訓練	●防災行政無線放送（市内一斉：訓練周知） ●防災行政無線放送（市内一斉：屋内退避開始～終了） ●防災行政無線放送（西山地区のみ：一時移転指示） ●緊急連絡メール・エリアメール送信 ●ホームページ公開																						

8 訓練概要

(1) 柏崎市災害対策本部訓練

新潟県災害対策本部運営訓練に併せて、県・市町村等の連携、手順の理解を重点としたシナリオ型による訓練を実施。また、県総合防災情報システムを活用した県・市町村間の情報共有を実施した。

訓練①は、地震との複合災害が発生、施設敷地緊急事態となった状況から訓練を開始。今後、

全面緊急事態となった場合に備えて作成する「全面緊急事態における防護措置の実施要領(案)」の確認等をTV会議や県総合防災情報システムを活用し確認した。

訓練②は、訓練①から想定時間を3日間スキップし、余震の発生及び放射性物質が放出された状況から開始。O I L 2における一時移転実施要領を決定するまでの流れについて訓練を実施した。また、市独自シナリオとして、余震により道路交通障害が発生し、一時移転対象地域が孤立したとの想定で災害対策本部での対応協議を行った。



本部運営訓練の様子

○TV会議

- ▶ 「全面緊急事態における防護措置実施要領(案)」の決定(県災害対策本部会議)
- ▶ 「O I L 2における一時移転実施要領」の決定(県災害対策本部会議)
- ▶ 「O I L 2における一時移転実施要領」の確認(合同対策協議会)

(2) オフサイトセンター運営訓練

新潟県災害対策本部運営訓練に併せて実施。現地災害対策本部長となる副市長(代理)及び連絡員をオフサイトセンターへ派遣。オフサイトセンターに設置される原子力災害合同対策協議会による情報共有・連携等の訓練を実施。また、市原子力災害対策本部会議とのZOOMによる情報共有を行った。

(3) 緊急時通信連絡訓練

国、新潟県災害対策本部、合同対策協議会及び関係市町村災害対策本部とのTV会議を実施。また、東京電力等からのFAXの受信等、緊急時と同様の通報連絡方法を使い、関係機関相互の通信連絡訓練を実施した。

(4) 学校等における保護者への引渡し訓練

P A Z 及び U P Z 内の学校等において、緊急時における児童園児の避難が円滑に行われるよう避難手順を確認。保護者への引き渡しから引き渡せなかった児童等のバスによる避難を実施した。今年度は、P A Z 内の県立学校においても訓練を実施した。



小学校での訓練の様子

○訓練実施場所

- ▶ P A Z : 日吉小学校、松波保育園、県立はまなす特別支援学校
- ▶ U P Z : 北条小学校、鯖石保育園

○訓練内容

- ▶ 保護者へ児童等の迎えを要請
- ▶ 迎えに来た保護者へ児童等の引渡し
- ▶ 避難時の安定ヨウ素剤の持ち出し
- ▶ 引渡しのできなかった児童等をバスに乗車させ、教職員等引率のもと避難

(5) P A Z 内の住民避難訓練

地震との複合災害の発生を想定し、警戒事態から全面緊急事態での避難指示の発出に至るまでを想定した広域避難訓練を実施した。昨年度に引き続き、避難行動要支援者の安否確認及び福祉車両による避難訓練を実施するとともに、避難経路の道路交通障害を想定した船舶での避難を実施した。

○住民避難訓練（松波地区）

- ▶ 警戒事態における情報収集・伝達訓練として、避難行動要支援者の安否確認と自主防災組織及び消防団、緊急時地区派遣隊との情報共有を実施。
- ▶ 施設敷地緊急事態における避難行動要支援者の避難訓練として、住民が避難行動要支援者役となり、車椅子に乗って福祉車両での避難を実施。



バス避難集合場所での受付の様子

▶ 全面緊急事態での住民避難として、当日 9 時 15 分に防災行政無線・エリアメール等により住民に避難を指示。住民は放送を契機にバス避難集合場所に集合し、バス避難支援隊による受付及び安定ヨウ素剤の配布を受けた。その後、住民はバス及び船舶により避難先（糸魚川市）に向けて避難を開始し、避難経由所を経由して避難所に避難を行った。避難経由所では、広域避難先遣隊が、避難所では受入先市職員がそれぞれ受付を実施した。

▶ 船舶避難

道路交通障害を想定し、バス避難集合場所からバスで柏崎港に向かい、海上保安庁の船舶に乗船し、直江津港まで移動。直江津港から再びバスに乗り換えて避難先に避難した。

▶ 新型コロナウイルス感染症対策

- ・参加者及び職員等のマスク着用、検温、手指の消毒
- ・バス乗車人数を定員の半分に抑え乗車
- ・発熱者を想定した会場レイアウト等

▶ 消防団による避難支援訓練

- ・バス避難集合場所における避難者の誘導、交通整理



乗船の様子

○訓練会場（糸魚川市）

避難経由所	マリンドリーム能生
避難所	能生生涯学習センター

(6) U P Z 内住民の屋内退避訓練

9 時 15 分放送の防災行政無線等により、各家庭で屋内退避訓練を実施。

(7) U P Z 内住民の一時移転訓練

P A Z 内住民の広域避難訓練と同じく、警戒事態から全面緊急事態、放射性物質放出後の一時移転指示発出までを想定した広域避難訓練を実施した。

今年度は、バス避難に加え、以前からの課題であった自家用車での避難訓練を実施するとともに、昨年度 P A Z 内住民避難訓練で行った顔認証による受付を U P Z での避難訓練において導入した。

○バス及び自家用車による住民避難訓練（西山地区）

- ▶ 警戒事態における情報収集・伝達訓練として、避難行動要支援者の安否確認と自主防災組織及び消防団、緊急時地区派遣隊との情報共有を実施。
- ▶ 住民は9時15分放送の防災行政無線等により屋内退避を実施。
- ▶ 9時40分放送の防災行政無線（西山地区限定放送）により、住民に一時移転を指示。住民は、放送を契機にバス又は自家用車により避難先（村上市）への避難を開始。避難経路所へ向かう途中のスクリーニングポイントにおいて、新潟県が行うスクリーニング・簡易除染訓練に参加。その後、避難経路所を経由して避難所に避難。避難経路所では、広域避難先遣隊が、避難所では受入先市職員がそれぞれ受付を実施した。
- ▶ 自家用車避難訓練
新潟県が用意したレンタカーを使用し、避難先までの一時移転を実施。
- ▶ 消防団による避難支援訓練
バス避難集合場所における避難者の誘導、交通整理



自家用車の車両スクリーニングの様子

○訓練会場（村上市）

スクリーニングポイント	豊栄SA（新潟市）
避難経路所	パルパーク神林
避難所	神林農村環境改善センター

(8) P A Z 内放射線防護施設訓練（高浜地区）

放射線防護施設（高浜コミュニティセンター）を会場に避難行動要支援者（車椅子）の避難訓練及び健康リスクがある方（寝たきり）の放射線防護施設への避難を想定し、福祉車両を使用した放射線防護施設への避難訓練を実施した。

なお、訓練では、消防職員の指導の基、訓練用人形（60kg）・段ボールベッドを使用して、ベッドからストレッチャーへの載せ替え、ストレッチャーからベッドへの載せ替えを実施した。



ストレッチャーからベッドへの載せ替えの様子

- (9) 安定ヨウ素剤の緊急配布訓練（住民避難訓練・一時移転訓練と同時に実施）
 バス避難集合場所での受付時に安定ヨウ素剤所持の有無、服用可否等を確認し、安定ヨウ素剤（代替品：あめ玉）を配布。なお、自家用車避難者に対してはスクリーニングポイントで配布した。
- (10) スクリーニング・簡易除染訓練
 一時移転訓練と併せ、スクリーニングポイント（豊栄SA）において、県が実施する住民及び避難車両のスクリーニング及び簡易除染に住民が参加。
- (11) 広報活動訓練
- 防災行政無線
 - ▶ 訓練事前告知放送（前日、当日）、訓練放送（PAZ避難、UPZ屋内退避指示、UPZ一時移転指示）、屋内退避訓練終了放送を実施
 - 緊急速報メール・エリアメール
 - ▶ 訓練放送（PAZ避難、UPZ屋内退避指示）を実施
 - その他
 - ▶ 市ホームページ、ツイッター、フェイスブックに訓練情報を掲載

 **緊急速報メール**

【訓練】柏崎市からの訓練メール
 【訓練メール】こちらは柏崎市です。原子力発電所の事故は全面緊急事態となりました。現在、放射性物質は外部へ漏れていません。高浜、荒浜、松波、西中通、西山町南部、二田地区の方は安定ヨウ素剤を服用し、自家用車等で避難を開始して下さい。自家用車で避難ができない方はバス避難集合場所に集合して下さい。その他の市内全ての地区の方は屋内退避を開始して下さい。【柏崎市防災・原子力課】
 （新潟県柏崎市）

9 住民避難訓練等の参加者の主な感想

(1) 参加者

- ▶ 訓練の内容がマンネリ化してきているように思える。子どもも含めみんなが参加したいと思えるような内容にしてほしい。
- ▶ 参加してみて、避難するにはエネルギー、体力、気力が必要だということがわかった。高齢者が多いので、係の人だけでなく、住民同士で協力しあうことが必要。
- ▶ 今日は天気が良かったが、雨の日や大雪の日、寒い時期などにはどういった対応をされるのか心配。また昼間では無く、夜の場合はどうなるのかも心配、今後そういった訓練も必要。
- ▶ 避難所までが遠い（村上市）、実際は不安になると思う。
- ▶ 学校を巻き込んだ避難訓練も必要である。また、小中学校は引渡しがあるが、高校生はどうするのがわからない。自分で移動できない子どもの避難について、もう少し検討と浸透が必要だと思った。訓練はすごくよかった。

(2) 参加市職員の主な感想

- ▶ 顔認証システムの設置に時間・手間が掛かる、また、電源が3口必要であるため、持ち運びができ、電源を必要としないタブレット型等で対応できないか。
- ▶ 電波状況や機器の故障等で顔認証システムでの受付に時間を要した（又は正常にできなかった。）。
- ▶ 顔認証システムだけで受付が完結しないため、安定ヨウ素剤の配布管理なども含め、受付業務の全てを行えるシステムが理想である。
- ▶ 職員及び住民とも安定ヨウ素剤についてよく分かっていなかった。安定ヨウ素剤の知識がもう少し必要だと感じた。
- ▶ 学校等は敷地が広く、避難者はまずどこに行けばいいのか迷いやすいため、「バス避難集合場所の受付はこちら⇒」みたいな看板又は張り紙があれば避難住民をよりスムーズに誘導できたと思われる。
- ▶ 避難所での村上市の職員とのやり取りがほぼなかった。訓練に併せて行うのは時間的制約もあり、難しいと思うが、市民も含めて合同で避難所運営訓練も行うとよいのではないかと感じた。

10 訓練で見た課題と対策

(1) 災害対策本部運営訓練、緊急時通信連絡訓練

・伝わりやすい言葉遣いについて

【課題】災害時の緊迫した状況であることを踏まえ、間違いを起こさない言葉遣い、明確で簡潔な報告を常に意識する必要がある。

【対策】原子力災害時に想定される報告事項や報告する際の留意点を整理し、訓練シナリオに反映しながら、訓練を重ねていくことで職員に意識付けていく。

・停電等を想定した複数の情報共有手段の確保について

【課題】複合災害時の停電等によりPC端末やプリンターが使用できないことや大型モニターによる情報共有ができないことを想定し、代替手段や電子データだけでなく紙媒体も事前に準備しておく必要がある。

【対策】原子力災害時の様々な情報共有手段を検討するとともに、必要となる書類・様式を紙媒体で一式用意しておくことを検討する。

・各部の個別訓練について

【課題】訓練は災害対策本部の対応が主となっている。災害への対応力の向上を図るため、各部の個別訓練を実施する必要がある。

【対策】各部において初動対応の再確認を行うとともに具体的な災害の発生状況を設定し、本部運営訓練に併せて、各部での個別訓練の実施を検討する。

(2) 学校等における保護者への引渡し訓練

・学校等における資機材の配備について

【課題】引き渡せなかった児童・園児のバスによる広域避難が渋滞等により時間を要した場合に備え、携帯トイレやオムツ、毛布等を持ち込む必要がある。

【対策】新潟県に報告するとともに学校等への避難用資機材の配備を検討する。

・学校等における原子力防災の実施について

【課題】原子力災害時に対応する教職員に対して、原子力災害の特殊性や避難の方法をもっと周知していく必要がある。

【対策】学校等に対して原子力防災講座の開催について提案する。

(3) PAZ・UPZの住民避難（一時移転）訓練

・自家用車を使った避難について

【課題】今年度、初めて自家用車での避難訓練を実施した。避難経路所、避難所での案内看板が原子力災害時は原則自家用車避難であることから、今後も引き続き自家用車での避難訓練を行い、課題の抽出や改善に努めていく必要がある。

【対策】引き続き自家用車での避難訓練を実施していくことを新潟県に要望する。

・避難行動要支援者の避難について

【課題】今年度新たに放射線防護施設を会場として、在宅の避難行動要支援者の避難訓練を実施した。避難する際に車椅子又はストレッチャーが必要となる者の避難には、支援者だけでは負担が大きく、近所の住民や自主防災組織、消防団の協力が不可欠であることから、今後も継続して訓練を実施し、共助の体制構築を図っていく。

【対策】避難行動要支援者の避難訓練及び自主防災組織等への訓練参加要請を継続していく。

・船舶避難訓練について

【課題】海上保安庁（第九管区海上保安本部）の協力により船舶避難訓練を実施した。複合災害を想定し、複数の避難方法を確保することは重要であることから、今後も様々な状況を想定した避難訓練を実施し、関係機関との連携を高めていく必要がある。

【対策】バス以外の方法による避難訓練の実施を新潟県に要望していく。

・感染症対策について

【課題】新型コロナウイルス感染症の流行により、訓練参加者の人数を制限していたが、これまでの訓練により感染症対策が徹底されてきたことから、参加者の制限を行わず、より多くの住民からの訓練への参加を求めていく必要がある。

【対策】多くの住民が参加できるよう訓練で手配するバスの台数の増加などを新潟県に要望する。

・ICTの活用について

【課題】昨年に引き続き、バス避難集合場所等での避難者の受付の効率化を図るため顔認証システムが試行された。しかし、機器トラブルにより顔認証できないケースが多く発生した。また、対応した職員からは機器

が大きく、運搬や機器設置の負担が大きいことや複数の電源を確保することから実用性を疑問視する意見があった。

【対策】今回の問題を踏まえ、より実用性の高いICTの活用方法の検討と訓練での試行を新潟県に要望する。

・資機材の使用方法について

【課題】緊急時地区派遣隊等の要員が持ち出すIP無線機等の資機材の使用方法については訓練前に説明会を開催しているが、訓練を重ねて使い慣れておく必要がある。

【対策】訓練前の事前説明において資機材に関する研修を行うとともに訓練時以外の研修の機会を検討する。

(4) 安定ヨウ素剤の緊急配布訓練

・緊急配布方法について

【課題】実災害時の大人数への配布を想定した緊急配布手順の簡略化を検討していく必要がある。

【対策】配布手順の簡略化及び効率化を図るために大人数への配布を想定した訓練とするなど配布手順の課題を洗い出していく。

(5) スクリーニング・簡易除染訓練

・スクリーニングポイントの周知について

【課題】昨年度の訓練参加者からの意見を踏まえ、今年度はスクリーニングポイントへの誘導看板を設置した。避難する住民が確実にたどり着けるように誘導看板の設置や誘導方法の工夫を検討していくとともに住民へのスクリーニングに関する周知継続する必要がある。

【対策】新潟県にスクリーニングポイントへの誘導方法の検討を求めるとともにUPZにおける原子力災害時の避難行動に関する周知を継続していく。

(7) 広報活動訓練

・防災行政無線での避難指示等について

【課題】訓練における避難指示等の放送は、いずれも長く、最長で6分を超えるため、簡潔且つ明確に状況を伝えられるよう放送文の見直しが必要である。

【対策】放送文の見直しを行う。

11 訓練の様子

		
<p>本部運営訓練</p>	<p>保護者引渡し訓練</p>	<p>引き渡せなかった児童のバス避難</p>
		
<p>情報収集・伝達訓練 (コミセン)</p>	<p>福祉車両での避難 (車椅子)</p>	<p>ストレッチャー搬送</p>
		
<p>受付・安定ヨウ素剤の配布</p>	<p>避難経由所での受付 (顔認証システム)</p>	<p>避難所 (防災グッズ展示)</p>
		
<p>スクリーニング訓練 (車両検査)</p>	<p>船舶避難訓練 (船内)</p>	<p>消防団 (車両の誘導)</p>

12 訓練参加者数

10月24日(月)本部運営訓練等

	本部員	連絡員等	リエゾン	オブザーバ	防災・原子力課	合計
本部運営訓練	17	15	3	1	11	47
OFC運営訓練	1	1	0	0	0	2
合計	18	16	3	1	11	49

10月25日(火)学校等の保護者引渡し訓練(UPZ 北条小学校、鯖石保育園)

	児童・園児			職員			合計	うちバス乗車
	引渡し	バス避難	計	本部等	バス避難	計		
北条小学校	65	20	85	2	11	13	98	31
鯖石保育園	20	7	27	1	4	5	32	11
合計	85	27	112	3	15	18	130	42

10月26日(水)学校等の保護者引渡し訓練(PAZ 日吉小学校、松波保育園)

	児童・園児			職員			合計	うちバス乗車
	引渡し	バス避難	計	本部等	バス避難	計		
日吉小学校	110	25	135	2	7	9	144	32
松波保育園	55	26	81	1	15	16	97	41
合計	165	51	216	3	22	25	241	73

10月29日(土)住民避難訓練

訓練項目	松波地区		西山地区		高浜地区		合計	
住民避難訓練 等	バス避難	バス	14	—	77	—	18	109
	船舶・自家用車	船舶	35	自家用車	29	—	—	64
	消防団	13分団	6	17,18分団	36	13分団	10	52
	計	—	55	—	142	—	28	225
市職員 等	広域避難先遣隊	糸魚川市	6	村上市	4	—	—	13
	緊急時地区派遣隊	—	3	—	3	—	3	9
	バス避難支援隊	—	4	—	16	—	—	20
	防災・原子力課員	—	2	—	3	—	1	6
	本部 ※合計のみ	—	—	—	—	—	—	8
	発熱者役 (市職員)	—	—	—	2	—	—	2
	市消防	—	—	—	—	—	2	2
	電力事業者等	—	—	—	—	—	2	2
計	—	15	—	28	—	8	62	
合計	—	70	—	170	—	36	287	

11月8日(火)学校等の保護者引渡し訓練(PAZ 県立はまなす特別支援学校)

	児童・生徒				職員				合計	うちバス乗車	うち福祉車両
	引渡し	バス避難	福祉車両	計	要員等	バス避難	福祉車両	計			
はまなす特別支援学校	50	18	2	70	3	13	3	19	89	31	5
合計	50	18	2	70	3	13	3	19	89	31	5

10月29日(土)住民避難訓練

屋内退避訓練	約65,000人
--------	----------

※R4.4.1現在 UPZ内人口

訓練合計

10月24日	49	本部
10月25日	130	学校等
10月26日	241	学校等
10月29日	287	住民避難
11月8日	89	学校等
合計	796	

【参考】令和3年度

11月9日	213	本部+学校等
11月11日	100	学校等
11月13日	241	住民避難
合計	554	

13 総合訓練における参加者からの意見等

(1) 学校等の保護者への引渡し訓練

No.	実施	意見等
1	小学校	文章では理解しきれていない部分もありましたが、実際に動きながら訓練することで、具体的に動きを確認することができ、有意義な時間であった。
2	小学校	引き渡しの動線を一方通行にしたことで、スムーズに流れた。
3	小学校	受付準備は訓練で事前にしっかり物品の準備をした状態だったけれど、いざという時にその準備がどれだけできるか。 全職員で物品の所在を把握しておく必要があると思う。
4	小学校	いざという時に職員全員がいるとは限らない。 どの役割を優先すべきか、兼任でできる役割は何か等整理しておくとい。
5	小学校	保護者やその家族への周知について、今回は事前にお便り等で引き渡しの方法をお知らせしてあるにもかかわらず、家族間での連絡・打ち合わせの不足がみられた。PTAメールを受信するのは保護者で、迎えは祖父母のケースも多い。実際には、もっと混乱することが予想される中、安全に確実に引渡しができるようにもっと知らせていかなくてはいけないのかなと思う。
6	小学校	バスで逃げるとき、自分も高学年も帽子をかぶっていなかった。放射線避けるために必要であったと反省している。
7	小学校	職員の動き一覧があったことで、自分が何をしたらいいのかがよく分かった。もう少し簡単なものでもよいのであると助かる。
8	小学校	自分のクラスでは自分の事前指導が足りず、放射線についてうまく説明できなかったため、緊張感が地震火事に比べてなかったように思える。私自身がより放射線について知り、低学年のわかる言葉でどんな危険性があるのかを説明できればよかったと反省している。
9	小学校	見えないものを相手に避難するのだから、子どもたちもイメージしにくかったと思う。事前に東日本地震による原発事故の映像などを見ておくことも一つの方法かと思う。
10	小学校	屋内避難、保護者への引き渡し、避難バスによる避難と、今回の訓練内容は適切であり、流れも分かり易く良かったと思う。
11	小学校	まずやってみたことが、一番の成果だと思う。試してみることが多かった。
12	小学校	実際の事故では、家族を迎えに行くなど児童について行けない教職員もいると思う。
13	小学校	全員強制的にバスにのるのか、はっきりさせてほしい。

14	小学校	職員も分からないことだらけだが、保護者もよく分からない現状である。学校にいるときに事故が起こったらどういう動きになるのか、市の方で周知してほしい。その際学校の動きを一方的に決めないで、学校と相談して決めてほしい。
15	小学校	引き渡しの練習として体育館で行い、落ち着いてできてよかった。職員であっても、人数は確実にかぞえないといけないが、出張に行かれた先生を数に入れてしまった。
16	小学校	実際に起きてしまった場合、パニック状態だと思うが、誰が保護者と帰るのか、バスで避難をするのか、しっかりとしたチェックが必要だと思う。保護者の方たちもしっかりと報告をしてくださって協力的だった。
17	小学校	打ち合わせをしながら、担当者がしっかりと準備し、ねらいを十分に達成できた訓練となった。市の防災担当や消防など大勢来られていたので、各立場の方からも、お話いただいても良いように思った。
18	小学校	天気が良かったので寒くなかったが、この時期は寒くなる可能性もあるため日程の検討が必要だと思う。
19	保育園	お迎えまでの待機時間が非常に長く、その時間の過ごし方について課題があると感じた。
20	保育園	バス避難の時、未満児はオムツを使用しているので良いが(非常持ち出しにオムツも入っている)3歳以上用に携帯トイレのようなものがあると良い。(実際の時は渋滞なども考えられる。非常用の携帯トイレは園での準備もしていない。)
21	保育園	実際の時は渋滞でお迎えに来られない方が増えることが予想される。しかし、バスに乗ってしまうと親子で会えない時間が増え、子、親、職員ともに不安が大きくなる。できる限り、園で確実に引渡したいと感じた。
22	保育園	落ち着いて対応することができたが、訓練と理解していてもやはり慌ててしまうので、日頃の訓練や情報共有が大事だと痛感した。
23	保育園	原子力災害が起きた時にしなくてはならないことを明確化しておく必要があると思った。(例:園舎の中に避難する、カーテンや窓を閉める、換気扇は止めるほか、役割分担や情報伝達の方法、避難先まで行く職員は誰なのか等)
24	保育園	保護者へは連絡網を使って情報を流したが、いざという時には動揺して文章が思い浮かばないと思うので、災害時対応のための文章が用意してあると良い。また、文章は短く簡潔な方が伝わりやすいと思った。
25	保育園	バスに乗せる際に園児の点呼を取り忘れた。引き渡し名簿と照らし合わせながら園児の人数把握を徹底すべきだった。
26	保育園	迅速な対応が求められる中で、現在使用している「引き渡しカード」は使いづらいと感じた。
27	保育園	普段はオムツをはかない大きい年齢の子でも、遠方まで避難することを考えると園用のオムツを準備する必要があるかもしれないと思った。また、園用の着替えやバスタオル、毛布などもある程度はバスに持ち込むことが必要だと思った。

28	保育園	今回、0・1・2歳児は参加しなかったが、災害時は全員が対象となるため、必要物品や大人の動きについて、職員間で話し合い周知しておく必要があると思った。
29	保育園	今回は原稿があったため、落ち着いて電話対応することができた。訓練は経験することが大事なので、落ち着いて参加するためにも原稿があるととても助かる。

(2) 住民避難訓練等

No.	地区	意見等
1	松波	船が相当揺れ、体調を崩した人がいた、悪天候で船が欠航となったらどうするのか。自家用車で移動するかと思うが、松波は352号線が通っており、利用者が多いと思われるし渋滞が発生すると思われる。その時にどうしたら良いのか。また、船も欠航となると移動手段としては車だけになってしまうのか。
2	松波	松風の里は4丁目にグループホームをもっている。施設入所者は、妙高市と協定を交わし、有事の際は受け入れをお願いしている。松風の里はフィルtringシステムがあるため、3日間は施設内に留まれる。その間に、妙高市にグループホーム入居者を引き受けに行きたいと思っているが、グループホームの人たちが妙高市まで避難する際に地域の方の協力を得ながら移動できると良いと思っている。
3	松波	今日は訓練であるため、あらかじめ船が手配され停泊していたが、本番の時は(到着まで)実際どのくらいかかるのか心配だ。
4	松波	昼食がとても残念な内容(コンビニ弁当)であった。毎回、参加者を集めるのに苦労している。食事や提示品などはせめて住民の方が参加して良かったと思えるような内容にしてほしい。
5	松波	ヘリの訓練もできると良いのではないかと。松浜中のグラウンドには離発着できる。
6	松波	避難については、とにかく安全に、無事にできると良いと思っている。
7	松波	訓練の内容がマンネリ化してきているように思える。もっと子どもも含めみんなが参加したいと思えるような内容にしてほしい。長岡市などはもっと大がかりである。
8	松波	開催曜日について、土曜日は仕事の人が多いため、日曜日にしてほしい。実際、消防団員の内、今日は仕事を休んで参加した人や参加できない人もいた。
9	松波	係の方の誘導、指示がとてもよかった。
10	松波	参加してみて、避難するにはエネルギー、体力、気力が必要だということがわかった。高齢者が多いので、係の人だけでなく、住民同士で協力しあうことが必要か。

11	松波	いつも秋にこの訓練を実施しているかと思うが、春にもやってほしい。回数を増やしてほしい。
12	松波	知ること、行動を起こすことの大切さがわかった。PAZ、UPZと言っているが、何のことか訓練に参加し説明を受けるまでわからなかった。今回、参加していない人たちはわからないと思う。どうやって周知するか、みんなが自覚できるよう知らせてほしい。また、自家用車の避難訓練も必要か。
13	松波	原発の災害は自然災害とは全く違う。放射能が漏れてしまってから車の手配などをしても遅いのではないか。だから、まずは放射能漏れがないよう改めて東電に伝えてほしい。
14	松波	初めて参加させてもらった。参加できなかった人たちにも内容を伝えてほしい。
15	松波	どういう想定 of 訓練なのか、事前に詳しく教えてほしかった。
16	松波	要配慮者の出発(訓練の方法)は確認したが、受け入れ先の訓練までやったほうが良いのではないか。
17	松波	初めて参加した。良い経験となった。
18	松波	夫婦で参加させてもらい良かった。船に乗るということで、少し観光気分になっていた人もいたような気がする。もっと緊張感をもってできればよかった。
19	松波	はまなす特別支援学校の受付場所が奥まわっていてわかりづらかった。バス乗り場も離れているため、もう少し工夫できないか。
20	松波	松波は高齢者が多いため、高齢者の避難方法を考えてほしい。
21	松波	訓練に参加させてもらい、喜んでいる。実際に避難するようなことがないようお願いしたい。
22	松波	来年は、ヘリコプターで避難を試みたい。
23	松波	マリンドリームに行った意味がよくわからなかった。
24	松波	船よりバスの方が早い。
25	松波	初めて参加した。災害はあつてはならないが、万が一の場合は今回の体験を活かしたい。
26	松波	本当に避難となると不安があるが、今回は良い経験になった。
27	松波	船がやっぱり大変でした。雨風だとどうなるかと思った。
28	松波	参加して大変良かった。

29	松波	もう少し時間が短い方が良かった。
30	松波	今回は、手取り足取りでしたが、実際の災害時はこのようにはいかないと思った。
31	松波	船に乗れたのは良かった。
32	松波	今回は船で避難したが、実際の災害時に、船があるかどうかはわからない。やはり、バスか車の方が良いのでは。
33	松波	避難する人数が増えた場合の対応はどうなるのかと思った。また、高齢者は体の不自由な方の避難はどうなるのかと心配になった。
34	松波	港で、風があり、指示がよく聞こえなかった。お年寄りもいるので、拡声器を使って指示をしてもらいたい。また、実際の災害時に、船で避難ができるのか疑問。
35	松波	実際の災害時はこのようにできるかどうか。
36	松波	初めて参加した。実際の災害時に、船での避難でこんなにモタモタしていて大丈夫かと思った。下船後のバス移動はスムーズであった。
37	松波	初めて参加した。テレビでは見ていたが、今回に参加して、流れとしてはこんなものかなと思ったが、実際の災害時はこのようにいくのかどうか。
38	西山 (バス)	訓練はスムーズにいったが、石地での顔認証に時間がかかった。めんどうくさい。事前の情報が不足している。訓練も説明をもっとしてほしい。
39	西山 (バス)	ほとんどよかった。車内の説明がよかった。
40	西山 (バス)	説明が聞き取りやすかった。
41	西山 (バス)	DVD は見えづらかった。席のせいかもしれないが・・・
42	西山 (バス)	リアルタイムでライブ映像をケーブルテレビとかで流せたら残っている人も訓練を感じられておもしろいのではないか。
43	西山 (バス)	顔認証が楽しかった。
44	西山 (バス)	スケジュールを広報に載せたら良いのではないか。町内回覧は不十分な気がする。見ない人もいる。
45	西山 (バス)	お弁当がおいしかった。
46	西山 (バス)	村上避難後、実際は、どのような流れになるか知りたい。家には戻れないとしても関東の親戚の家等に自己判断で移動してよいか等
47	西山 (バス)	同居の家族が障がい者と高齢な母なのでこれを機に避難について考えられてよかった。

48	西山 (バス)	豊栄SAでのスクリーニング後の洗浄は実際も今回と同様の方法なのか？ 実際はどのようなものか知りたい。
49	西山 (バス)	弁当を頂くのもありがたいが、実際には『炊き出し』を行うのではないか、『炊き出し』の訓練も行ったら良いのではないか。
50	西山 (バス)	バスの長時間移動で、高齢者が多いため、もう少しトイレ休憩を小まめに取って貰うと良い。
51	西山 (バス)	神林村(村上市)まで遠路避難体験をさせて貰い、有効な避難訓練の経験が出来たことに感謝。
52	西山 (バス)	村上市までの避難は遠い。もう少し、近い所への避難を検討できないか？(村上市まで、避難しなくても良いのではないか？)
53	西山 (バス)	訓練をこれからも継続して実施して貰いたい。
54	西山 (バス)	避難経路の道路に対して、バスが大きすぎる。もう少し、安全に通行できる大きさのバスを使った方が、避難には適当でないか。(今回避難経路で一部道路工事中箇所や部分的に狭い区間があり、すれ違いや曲がる時に、運転手が苦労しているようだった。)
55	西山 (バス)	今回、スクリーニングにも参加したが非常に時間が掛り、避難することは非常に大変だという事が実感できた。原発事故は絶対に起こしてはならない。ミサイルが飛んできても壊れないような原発の運営をして頂きたい。
56	西山 (バス)	今日は天気が良かったが、雨の日や大雪の日、寒い時期などにはどういった対応をされるのか心配。また昼間では無く、夜の場合はどうなるのかも心配、今後そういった訓練も必要。
57	西山 (バス)	村上市までの避難は、距離が長く、高齢者は疲れる。今回は少人数だったので(バスもゆったり使えたが)、大勢になれば余計大変となる。もっと近い所への避難を検討して欲しい。
58	西山 (バス)	バスに乗っているだけだが疲れた。結構ストレスを感じた。畑仕事をしている方が、余程疲れない。途中で(気分転換に)体操でもしたら良いかも。
59	西山 (バス)	今日は秋の少し寒い時期なので長袖で問題ないが、付着防止のためとはいえ、熱中症が起こるような真夏日に長袖や防護服を着て、同じような対応ができるだろうか？逆に真冬の対応も今日と同じにはならないだろう。季節に応じた避難(対策)方法を考えて、周知または訓練して貰えると良い。
60	西山 (バス)	大崎では、顔認証システムが使えなかった。折角のハイテク機器なので、完全に使えるように準備しておいて貰いたかった。今回は訓練と言う事で、(避難経路所で)認証が出来なくても素通りだったが、顔認証できないということで受け入れを拒否されるようなことが無いように、認証(登録)が出来なかった場合のシステムも考えて欲しい。

61	西山 (バス)	基本的には、自家用車で避難するのだろうが、避難する車の台数が多くなると特に雪の降る時期は、渋滞してスムーズに動けないと思う。気象条件が悪い事も考慮して、避難距離がもう少し短い場所に避難場所を検討できないか。
62	西山 (バス)	西山から村上市までの避難は遠い。もう少し短縮できる避難場所(経路)を検討願いたい。
63	西山 (バス)	神林までは遠いので、近場の避難所を検討して欲しい。また今回の訓練では、高齢者の参加が多かったが、これからは30代とか40代の若い方にも参加して貰いたい。
64	西山 (バス)	先ずは(高齢者しか参加していない。)若い方がもう少し参加できるような(訓練の)やり方を検討して欲しい。次に、避難所まで距離が遠いのも問題があるが、今回高速でもまだ1車線の区間を避難してきたが特に冬などは渋滞が心配なので、下道でも車線が多い道路を避難経路とした方が、良いのではないかと。最後に、原子力災害が無いようにしっかりとやってほしい。
65	西山 (バス)	大崎では、顔認証システムが正常に稼働しなかったが、顔認証システムをどう使うか説明が無く、認証することによって個人情報はどう使われていくかも良く分からなかった。システムの説明をして貰えると良かった。(システムが正常作動せず、登録が出来なかったので個人情報の取扱いの用紙も配布しなかった模様。)
66	西山 (バス)	大崎では、顔認証システムが正常に稼働しなかった。今回初めて訓練に参加させて貰ったが顔認証までやるとは知らなかったし、顔認証システムをどう使うか説明が無く、避難経路所でも認証ができなかったため、結局どういうシステムでどう使われるのかが分からない。 顔認証だけで、何処の誰かが分かるようになれば家族がバラバラに避難しても、直ぐにどこの避難所にいるのかも分かり、安心できる。倒れて意識を無くしていても、顔認証でどこの誰かが分かれば安心・安全なのではないか。また、もし認知症の方が避難して、自分が誰だか分からないという時でも、あらかじめ登録しておけば、何処の誰かが分かる等、利点は多いので、今回の大崎での失敗をデバックとして、どんどんシステムを改良して貰いたい。
67	西山 (バス)	原子力防災についての基本的な部分が理解できた。勤めていた時は訓練等に参加できなかったが、退職し今回はじめて参加できた。毎年テレビのニュースで見っていたが、実際に参加してみて、大変有意義な訓練だった。
68	西山 (バス)	今回初めて訓練に参加した。実際に避難所まで避難するなど、動きを確認できて有意義だった。
69	西山 (バス)	村上市まではやはり遠い。実際は複合災害、地震等が起きていれば道は混雑し、新潟市を抜けて避難するのはなかなか大変だと感じた。 うちは家族が多い。8人家族、孫もいるし年寄りもいるので、避難をどうするか、家庭でしっかり話し合いが必要だと感じた。職場、保育園、家と普段いる場所がバラバラなので、事態が起こったときにどうすればいいか、考えなくてはならない。

70	西山 (バス)	中学校の統合で西山中は瑞穂中になる予定だが、原子力災害時には西山にいる親と中学校に通っている子どもで逃げる方向が変わってしまう。そうした場合、子供の面倒は誰が見てくれるのか。対応を考えてほしい。
71	西山 (バス)	実際に事故が発生した場合、今回の手順で避難できるか疑問に思う。
72	西山 (バス)	個人で行動できるか、顔認証がうまくいくのかなんとも言えない。
73	西山 (バス)	今日の訓練は、スムーズだったが実際はこんな感じにはならないと思う。
74	西山 (バス)	バスに乗っていただけなので避難した感じがしなかった、顔認証以外はスムーズだった。
75	西山 (バス)	今日の訓練は、いい経験ができた。スクリーニング検査は、悪天候の時はどうなのか。
76	西山 (バス)	訓練に参加して時間間隔と距離間についてはいいと感じた。もっと多くの方に訓練に参加した方がいいと思う。
77	西山 (バス)	避難場所が遠い、時間が掛かる、スクリーニング検査もあるので避難所が近くがいいと感じた。
78	西山 (バス)	天気もよくスムーズに終わって良かった。
79	西山 (バス)	事故が発生した場合は、これ以上に時間が掛かると思うので心配
80	西山 (バス)	避難経路(トンネル)を良く考えてもらいたい。
81	西山 (バス)	避難所までが遠い、実際は不安になると思う。
82	西山 (バス)	高齢者からすると避難所が遠い。
83	西山 (バス)	避難所が遠すぎると感じた、せめて新潟市までかなと思う。
84	西山 (バス)	コミセンの避難の人数を想定しているか分からない。
85	西山 (バス)	避難所が遠いと感じたし、近くでもいいと思う。
86	西山 (バス)	避難したバスの車内が寒かった。いざという時のために訓練は必要と感じた。
87	西山 (バス)	訓練に参加してよかった。

88	西山 (バス)	訓練に参加してよかった。
89	西山 (自家用車)	豊栄SAでスクリーニング検査をした。そこで休憩するつもりだったが、終わったらすぐに追い出されてしまった。次の避難経路所まで休憩場所がなかった。訓練は有意義であった。
90	西山 (自家用車)	初めて行ったが大変勉強になった。顔認証システムがなかなか認証せず、現実的にはハードル高いかもしれない。豊栄SAのスクリーニング検査、県も緊密に連携取ってやっていたため、こういう体制でやるのかと勉強になった。
91	西山 (自家用車)	訓練であったため、スムーズにいったが、実際に発生した場合、流れ作業のようにスムーズにできるのかという気持ちはあった。訓練自体は新鮮であり、何かあったときにこのとおりに進めばよいなと思った。
92	西山 (自家用車)	実感がない。参加者が少ないから豊栄SAなど混んでもいない。どのように順番で、どのように時間が掛かるのか分からない。次回のときはもっと現実的な感じとしてほしい。また、参加者よりもスタッフが多く、参加者が苦労したというところはない。村上につくまでに難儀したというのもない。今日は職員の手順を確認するものであった。職員も異動とかで職場も変わるため、出来る限り多くの職員が関わって定期的実施してほしい。
93	西山 (自家用車)	各場所をまわったが、次のときは何が必要なのか指示があんまりなく戸惑った。
94	西山 (自家用車)	避難経路所に近づくごとに看板がなく不案内であった。誘導がなかった。
95	西山 (自家用車)	豊栄SAだと聞いていたが、実際はパーキングエリアであった。案内がPであったため通りすぎるところであった。
96	西山 (自家用車)	自家用車はバラバラであったため、勝手にご飯食べて、勝手に解散だった。最後に訓示などあればよかった。訓練のちょっとした積み重ねで実効性を上げていくしかない。
97	西山 (自家用車)	豊栄は段取り良く動いていた。パルパークのほうは誘導がいい加減であった。着いた方がいいが何したらいいのか、車から降りていいのか分からなかった。
98	西山 (自家用車)	レンタカーが慣れてなくて、機能が多かった。豊栄SAはスムーズであり、その他も特に問題はなかった。
99	西山 (自家用車)	天候に恵まれたため、内容的には快適であった。ただ、不安なものは不安である。スクリーニングにあんなに時間が掛かるとは思わなかった。安定ヨウ素剤をもらうときに待ちがあり、待ち時間が結構あった。本番となったときにどのくらい時間が掛かるのか不安である。

100	西山 (自家用車)	スクリーニングポイントをもっとみんなにPRしたほうがよい。場所や具体的にどんなことをするか知らなかったため周知が必要。また、受入側も多くの人が必要で大変なことが分かった。
101	西山 (自家用車)	アンケートの書く内容が多いため、項目を少なくして判断できるようにしてほしい。
102	西山 (自家用車)	避難所で防災テントの展示があり、参考になった。避難所に避難する人を見てきたが、自分が避難するとなったら大変だと改めて感じた。避難所で1泊する訓練もあってもいいのではないか。
103	西山 (自家用車)	遠い。辿りつけるか不安である。もう少し近くであれば気が楽になる。
104	西山 (自家用車)	ナビの案内がおかしかった。
105	西山 (自家用車)	スクリーニングも各場所で説明があり、スムーズであった。ただ、人数が少なかつたため、もっと多くなったときに大変だと感じた。避難所等も問題なかった。天候が良かったため、動きやすいが、これが雨や雪だと自家用車だと大変かと思う。
106	西山 (自家用車)	今回は大人だけであったが、これが平日で子どもがいたときにどのように動くのか、学校に迎えに行くのか、学校が対応してくれるのか、また、高齢者がいたときにどうするのか、そのあたりを市から情報発信してほしい。
107	西山 (自家用車)	安定ヨウ素剤を飲むタイミングを教えてもらってない。家を出る、避難する前に飲むのが分かればよい。
108	西山 (自家用車)	参加者は避難ルートが分かったが、参加していない人はガイドブックをどれだけ読むのか、避難ルートが分からない人が大半ではないか。
109	西山 (自家用車)	学校等は引渡しせずに学校ごとすぐに避難し、避難先で合流するのがよいのではないか。統合の話もあるため、保護者にちゃんと説明しておく必要がある。学校統合を原発からの避難で反対している人も結構いる。学校巻き込んだ避難訓練も必要である。また、小中学校は引渡しがあるが、高校生はどうするのがわからない。自分で移動できない子どもの避難について、もう少し検討と浸透が必要だと思った。訓練はすごくよかった。
110	高浜	今回の訓練は、フィルタリングシステムを稼働せずに行ったが、これでは本来と違う動線になる。本格的に実施するのであれば、フィルタリングシステムを稼働して行った方が良かった。
111	高浜	地区住民が、もっと多く参加しなくてはいけないと感じた
112	高浜	ストレッチャーを、2階まで運び込むのは大変だと思う。
113	高浜	本当の緊急時に、どこまで出来るか不安がある。
114	高浜	日頃の繰り返しの訓練が大事だと思う。

115	高浜	今回の訓練では、けが人は人形を用いて行ったが、実際の間を運んだりした方が良かった。
116	高浜	地区住民の人で、今日の訓練の実施を知らない人がいた。周知をしっかりとしてほしい。
117	高浜	段ボールベットの組み立てをやってみたが、なかなか難しいと感じた。
118	高浜	フィルタリングシステムの稼働については、地区住民だけでなく市の職員ももう少し回数を増やして訓練してほしい。
119	高浜	フィルタリングシステムが稼働すると、ストレッチャーは体育館の側面から運び込むことになるが、現実的には非常に難しい。建物の改修が必要と感じている。